

VI 資料

1 試験研究課題の推移

■栽培関係の試験研究

試験名	時期
荒廃茶園に関する試験	
茶園土壤の酸度並びに土性に関する調査	大正14～昭和3年
茶園土壤酸性中和に関する予備調査、茶園更新に関する試験	大正14～大正15年
茶園更新に関する生理的調査、茶園改良ほ場試験	大正15年～昭和8年
茶園土壤に対する石灰・堆肥・殺菌剤の影響	昭和3年
荒廃茶園土壤採取、茶園改良植木鉢試験	昭和5～7、11年
移植苗木仕立試験	昭和7～9年
荒廃茶園土壤の理化学的研究、肥料分解試験	昭和7～10、13～17年
現地試験、室内試験、土管試験	昭和9～11、24～26年
野草の合理的施肥に関する試験、園地の反応に関する調査	昭和9～10年
茶樹生理に関する試験	昭和13～14年
栽培試験、茶樹の生育と水溶成分に関する試験	昭和14～18年
発芽状況及び収量調査	昭和3年
品種に関する試験	
耐寒性茶樹品種育成試験	昭和12～13年
優良系統の選抜育成	昭和14～37年
茶原種ほ（原種母樹園の保存、原種の増殖・育苗・配布）	昭和16～32年
品種適否試験	昭和17～32年
候補原樹性能比較試験	昭和19～37年
優良品種決定調査	昭和35～37年
系統適応性検定試験	昭和38年～
茶樹品種及び系統に関する試験	昭和39～45、47～49年
新品種育成に関する試験（系統比較試験）	昭和39年～
茶樹品種の多収性に関する試験	昭和39～42年
経営的品種組み合わせに関する試験	昭和40～43年
品種の生産性に関する試験	昭和45～47年
品種に関する試験	昭和46～61年、平成3～10年、平成12年～
在来種の選抜、収集に関する調査研究	昭和60～平成5、平成10年～
はさみ摘み品種比較試験	平成2～13年
‘さみどり’の早期成園化技術	平成10～14年
煎茶用品種比較試験	平成12～20年
てん茶用品種比較試験	平成14～16年
品種に関する調査	平成14年～
さえみどりのてん茶適性試験	平成15～17年
新品種鳳春、展茗の特徴を活かす栽培技術の確立	平成18～21年
中山間地域の茶業活性化に資する茶品種とその利用技術の開発	平成23～25年
鳳春・展茗の成木仕立て技術の確立	平成23～25年
茶新品種における霜害対策と色沢向上技術の確立	平成26～28年
色沢に優れた国育成系統の機械摘みてん茶への利用	平成26～30年
FS てん茶適性の早期スクリーニングに向けたてん茶用品種の葉の構造特性の解明	平成30年
育苗に関する試験	
茶園増殖に関する試験及び調査、種子の吸水に関する試験	大正14～昭和2年
茶種子の良否と発芽および生育関係試験	大正15年
移植時期試験、種子採取時期と発芽との関係調査	大正15、昭和2、20年
幼苗の直根剪除と生育の状況調査	昭和2年
茶園育成に関する試験及び調査	昭和2～3年
電気温床による挿床育苗に関する試験	昭和25～26年
育苗ほの施肥方法に関する試験	昭和26～27、29、31年
挿木の発根促進に関する試験	昭和27～29年

茶芽抑制に関する試験、茶芽の伸育調節に関する試験	昭和28～29、30年
挿木床土壌消毒に関する試験	昭和31～33、35～36年
挿木苗に対するジベレリン浸漬処理に関する試験	昭和32年
発芽抑制剤による茶芽伸育抑制試験	昭和33年
挿木床基肥施用試験	昭和36年
挿木育苗時における蒸散抑制試験	昭和36～37年
省力挿木法に関する試験	昭和39～40年
早期成園化に関する試験	昭和44～48年
挿木に関する試験	昭和49年
育苗法の改善	昭和63年
茶のペーパーポット育苗法に適した軽量化用土の開発	平成19～21年
茶樹栽培管理に関する試験	
本所茶園標準栽培法、本所茶園標準栽培収支調査	大正14～昭和18年
茶園管理に関する調査、茶園経営に関する調査	昭和2～5年
は種における覆土程度試験	昭和3～4年
てん茶原料園促成に関する試験	昭和6～9年
茶樹品種による原料の経済的生産試験	昭和14～18年
水田地帯における地下水位と根群との関係調査	昭和28年
自然環境と製茶品質との関連性に関する試験	昭和39～45年
茶栽培の省力機械化に関する研究	昭和44～47年
夏季及び生育停止期の摘芯効果	昭和55、57～58年
元出し元寄せと枝条発育との関係	昭和55～58年
夏季高温期の被覆とかん水の効果	昭和55～58年
かんがい施設の多目的利用と余剰水対策	昭和56年
煎茶の経営安定生産技術に関する調査	昭和56～57年
粗大有機物投与と深耕が収量に及ぼす影響	昭和56～60年
手摘み茶園における母枝の生育調整と一番茶の収量品質	昭和58～60年
煎茶の品質向上対策調査及び試験	平成3～5年
水田転換茶園に係る技術対策（生育阻害要因調査）	平成11～
自然仕立て茶園における一番茶新芽の生育予測	平成13年
丹後国営開発農地における茶栽培の技術確立	平成16～23年
水平仕立て（R=3000mm）における機械摘みてん茶の収量性	平成18～19年
熱画像情報を用いた被覆栽培茶園の樹勢診断技術の開発	平成23～25年
斜面地茶園における乗用型機械を利用した省力的直掛け栽培技術の確立	平成24～26年
FS CCDカメラ等を用いたクロロフィル蛍光画像測定法	平成25年
樹体情報を指標とした茶樹の樹勢診断技術の開発	平成27～29年
農水・食料新技術 被覆茶需要に応える簡易な樹体診断法と効率的被覆作業による高品位安定生産体系の確立 「熱画像による被覆影響評価技術の開発」樹体情報を指標とした茶樹の樹勢診断技術の開発	平成27～29年
非破壊測定による宇治茶生産管理システム	平成28～30年
宇治茶における直掛けてん茶品質を向上させる栽培技術の確立	平成29～令和2年
スマ開発実証プロ 中山間傾斜地茶園における高品質てん茶の省力的生産体系の構築	令和2～3年
気象データを活用した高品質な宇治茶の生育・管理適期予測	令和3～5年
プロ 府内全域の中山間地域に適用可能な農作物管理適期を予測するシステム開発	令和6～8年
仕立てに関する試験	
新植茶樹仕立て試験	大正14～昭和4、8年
てん茶園仕立て試験	昭和6～9年
摘採仕立て併用試験	昭和11～14年
摘採改良上必要な茶樹仕立て方法に関する試験	昭和16年
品種に関する調査 水平仕立て（R=3000mm）における機械摘みてん茶の収量性	平成17～19年
FS 有機栽培茶の樹冠下のうねの機械除草に対応した仕立て法の検討	令和6年
更新及び整せん枝に関する試験	
整枝の製茶品質及び数量に及ぼす関係試験	大正14年
徒長枝剪除時期試験、委託剪定試験、夏期整枝時期試験	大正15～昭和16年
はさみ摘み園せん枝時期試験	昭和33年
生態上から見たはさみ摘み園整枝法の検討	昭和49年
番刈り時期と枝条発育条件との関係	昭和55、57～58年

深刈り、中切り更新と品種別有効年数に関する試験	昭和56～60年
二番茶後深整枝が翌年一番茶の生育と収量に及ぼす影響	昭和57～60年
番刈りの高さ及び時期と枝揃いとの関係解明	昭和60年
てん茶用生葉生産のための整せん枝法	昭和63～平成4年
手摘み茶園における更新法	昭和63～平成5年
秋整枝時期が再萌芽率に及ぼす影響	平成11～13年
摘採に関する試験	
摘採はさみ使用に関する調査	大正14年
摘採試験	昭和11～15、28～30年
摘採面の状態による各種摘採方法の適用範囲に関する試験	昭和16～19年
覆下園のはさみ摘み応用に関する試験	昭和22～29年
覆下茶園における二番茶摘採試験	昭和28、30～33年
覆下茶園のはさみ刈りに関する試験	昭和33～37年
覆下茶園の摘採に関する試験	昭和38～43年
覆下茶摘採のはさみ摘み化に関する試験	昭和47～50年
手摘み茶園の摘採法改善	昭和58年
良質生葉摘採時期と茶芽成分との関係	昭和61～63年
機械摘採のてん茶栽培における省力管理技術の確立	平成6～11年
FS 被覆条件下における反射光を利用した摘採適期判定・予測技術の開発	平成27年
プロ ICTを活用した京都オリジナルのスマート生産技術の開発	平成28～30年
プロ 宇治茶の機能性の解明と伝統技術に基づく新技術の開発による宇治茶ブランドの継承発展 宇治茶の優れた伝統技術を活かす省力的新技術の開発「手摘み作業の省力自動化」	平成30～令和4年
被覆に関する試験	
玉露園における光線、温度の測定	昭和2～7年
てん茶園における覆架方法試験	昭和6～8年
覆架方法による原料の経済的生産、覆架時期に関する試験	昭和10～13年
簡易被覆に関する試験、生理生態に関する基礎調査	昭和26～33年
優良品種の覆架方法に関する試験、有色ビニール被覆試験	昭和28～38年
被覆の強弱による根の伸育状況	昭和30～31年
被覆程度並びに時期試験	昭和32～33年
被覆時期及び被覆が老令樹に及ぼす影響試験	昭和32～33年
被覆による「うどめ」発生機構に関する試験	昭和34～36年
被覆材料に関する試験	昭和34～37、39～40、42年
被覆による摘採期間延長に関する試験	昭和37年
ビニロンかんれいしや被覆試験	昭和41年
被覆茶の生理生態に関する試験	昭和41～42年
紅茶用品種の被覆に関する試験	昭和41～42年
被覆時期に関する試験	昭和41～42年
被覆茶園の摘採に関する試験	昭和43年
被覆の簡易化に伴う高級茶の品質低下防止に関する試験	昭和45～47年
被覆試験	昭和46～49年
化学繊維による被覆技術の確立試験	昭和50～54年
被覆資材の特性と利用技術に関する試験	昭和55～56年
はさみ摘み玉露の被覆方法と時期、期間	昭和56～60年
Y・S・N系資材の利用技術に関する試験	昭和58～59年
はさみ摘み玉露における遮光の時期及び期間	昭和58～60年
早出し煎茶の簡易被覆効果	昭和59～61年
被覆資材の改良	平成12～16年
本ずに替わる被覆資材・方法の検索	平成12～16年
一番茶の直掛け被覆資材・方法の検索	平成13～16年
二番茶の直掛け被覆資材・方法の検索	平成13～16年
直掛け・トンネル被覆の資材・方法の検索	平成14～16年
茶における直掛け被覆栽培の省力化	平成18～20年
紫外線と茶品質関連成分との関係解明	平成19～25年
光プロ 光制御による茶新芽の生育・品質のコントロールと栽培体系化 「茶の被覆栽培における光質制御による新芽形態・茶品質関連成分の関係解明及び品質向上技術の開発」	平成21～25年
新しい直掛け被覆方式の乗用型機械による利用技術の確立	平成21～23年

緊プロ 農業機械等緊急開発事業「傾斜地茶園における乗用型機械を利用した省力的直掛け栽培技術の確立」	平成24～26年
緊プロ 農業機械等緊急開発事業「チャの直掛け栽培用被覆材の被覆・除去装置」	平成25～26年
宇治茶の覆い香味が向上する紫外線除去被覆資材の開発	平成28～30年
宇治茶における直掛けでん茶品質を向上させる栽培技術の確立	平成29～令和2年
プロ 宇治茶の機能性の解明と伝統技術に基づく新技術の開発による宇治茶ブランドの継承発展 宇治茶の優れた伝統技術を活かす省力的新技術の開発「本ず被覆作業および解除作業の省力化」	平成30～令和2年
FS 秋芽の被覆が秋でん茶の品質関連成分及び被覆後の生育に及ぼす影響調査	令和2年
気象データを活用した高品質な宇治茶の生育・管理適期予測	令和3～5年
根系改善に関する試験	
挿木接ぎ法の解明	昭和63～平成元年
挿木接ぎ木の台木・穂木の組み合わせ	昭和63～平成元年
深型ポット資材の検索と育苗法	平成2～3年
深型ポット育成苗の定植後の生育	平成2～5、平成6年
挿木接ぎの穂木・台木の組み合わせ	昭和63～平成2年
挿木接ぎ苗の定植後の生育	平成2～5年
栽植法による根系改善	平成2～5年
実生苗を台木とした接木法	平成2～5年
定植後無せん枝による根系改善	平成2～5年
茶樹の挿木接ぎによる生産性向上	平成6年
土壤肥料に関する試験	
肥効、芽出し肥に対する試験	大正14年
有機質肥料及び石灰加用試験	大正15、昭和2、7年
窒素肥料種類試験、速効性窒素肥料試験	大正14～昭和15年
三要素試験、施肥時期試験	大正15～昭和18年
てん茶栽培試験地の土壤性質調査、土性調査	昭和6～7年
茶園の経済的施肥試験、肥料分解試験	昭和9～13年
石灰窒素施用法試験、硫酸アンモニアの施肥試験	昭和11～14年
窒素適量試験、肥料種類試験	昭和16～18、20～24年
窒素、硝安、尿素比較試験	昭和24～25年
窒素肥料の分施方法に関する試験、硫安、硝安、尿素比較試験	昭和26～29、31年
尿素の葉面散布試験	昭和27～28、31年
挿木発根後に及ぼす各種薬剤の葉面散布試験	昭和30年
挿木床に於けるKRILJUMに関する試験	昭和30年
化成肥料肥効試験、固形肥料試験	昭和31～34年
粒状肥料に関する試験、肥料の分施に関する試験	昭和32～35年
魚腸肥料に関する試験、追肥分施に関する試験	昭和32～33年
葉面散布に関する試験	昭和32～38、54～57年
ダイナマイトイ爆破による茶園土壤の深耕改良に関する試験	昭和32～33年
茶園土壤のカリに関する試験	昭和32～35年
肥飼料作物の茶園間作に関する試験	昭和32、34～35年
被覆園における追肥分施試験	昭和33年
黄化葉に関する試験	昭和33～36年
肥料種類別試験、土性と茶樹の生育に関する試験	昭和33～38年
くみあい化成日の本2号、魚腸煮しめ、エスサン肥料に関する試験	昭和34～35年
尿素系の肥料に関する試験	昭和34年
摘採直前追肥（色付肥）の肥効に関する試験	昭和34～38年
新芽に対する尿素及び蔗糖の葉面散布に関する研究	昭和34～35年
茶園土壤の調査	昭和35～36年
色付け肥の肥効に関する試験	昭和35～38、48～49年
ウレアホルム並びに尿素肥料に関する試験	昭和35～40年
各種肥料の連用に関する試験	昭和35～40年
同位元素による窒素の吸収移動に関する試験	昭和35～40年
土壤改良剤の施用に関する試験	昭和36～37年
地方判定試験	昭和37～40年
茶生葉のコーティングによる炭素同化作用抑制に関する試験	昭和38年
同位元素による茶樹の窒素代謝に関する試験	昭和38～40、42年
各種肥料の茶園土壤中で有効化速度に関する試験	昭和38～39年

土壤改良による茶園土壤の改良に関する試験	昭和38～39年
地方保全基本調査に基づく改良対策試験	昭和38～40年
ppp尿素の茶園における特性効果に関する試験	昭和39年
茶園造成予定地の土壤調査	昭和39年
土壤生産性向上に関する試験	昭和42年
重窒素による茶樹の窒素吸収並びに体内移動に関する研究	昭和46～49年
施肥合理化に関する試験	昭和48年
土壤改良と施肥感応に関する試験	昭和49年
被覆茶園の施肥法確立試験、土壤改良資材試験	昭和50～54年
産地の地質別土壤調査	昭和50～51年
品質に及ぼす無機成分の影響	昭和51～54年
年間土壤養分条件と樹体養分吸収調査	昭和51～54年
有機質肥料の茶芽の品質に及ぼす影響	昭和51～54年
施肥慣行調査	昭和52年
窒素質肥料の吸収と体内移動の年間周期	昭和52～54年
被覆茶に対する液肥施用効果に関する関係	昭和54年
腐熟有機物の液状施用と香味との関係	昭和56～60年
ひまし油粕施用試験	昭和57～60年
土壤中の窒素濃度と茶樹による吸収量との関係	昭和59～60年
茶樹の栄養診断指標の検索	昭和63～平成2年
茶樹の生育障害に関する調査研究	昭和59～平成4年
重粘茶園土壤における土壤改良方法の比較試験	昭和61～63年
減肥による土壤環境の改善	昭和61～63年
耐干性、耐湿性品種の検索	平成元～5年
有機質肥料抽出液の土壤かん注	平成元、5年
砂質土壤における施肥法	平成2～4年
緩効性被覆肥料の深層施用	平成3、5年
挿木接ぎによる生育障害の回避	平成4～5年
挿木接ぎ苗の養分吸収特性（窒素、マンガン）	平成4～5年
花崗岩土壤における効率的肥培管理方法の検討	平成4年～
中山間地域における緑茶の品質向上と環境負荷低減のための合理的施肥管理技術の確立	平成6～10年
茶園における新肥料利用による施肥合理化試験	平成6～11年、平成15～17年、
茶園土壤成分の簡易、迅速診断	平成10～14年、
茶園における環境保全的施肥管理技術	平成10～17年
各種資材の組み合わせによる茶園からの窒素流出低減技術の確立	平成11～15年
環境に配慮した省力的施肥管理技術の確立	平成15～17年、平成18～20年
牛ふん堆肥による茶園の窒素肥料代替試験	平成16～18年
点滴施肥による茶園施肥体系の確立	平成16～18年
宇治茶(煎茶)の香気の発揚を促す適正施肥量の解明	平成17～18年
点滴施肥導入機械摘み茶園における良質多収整枝法の確立	平成17～19年
茶園における施肥効率向上技術の確立試験	平成21～23年
機械摘みのてん茶栽培園における効率的施肥試験	平成21年～
気象災害対策に関する試験	
霜害に対する試験	昭和3、24年
茶樹寒害復旧に関する試験	昭和12年
小倉遊田の洪水茶園の調査	昭和29年
茶樹の凍霜害に関する研究	昭和34～36年
寒害の実態調査	昭和38年
茶樹凍霜害防止に関する試験	昭和45、47～49年
送風法による凍霜害防止試験	昭和48～49年
霜害対策試験	昭和55～57年
ピラミッド式被覆による防霜程度とその後の生育に及ぼす影響	昭和55～57年
干ばつ時のかん水と生育	昭和57～58年
蒸散抑制剤の寒干害防止効果	昭和57～60年
直掛け被覆資材の寒干害防止効果	昭和57～60年
綾部地域における茶樹の枝枯れ調査	昭和59～平成2年
1986年7月豪雨に係る茶園被害調査	昭和61年
茶新品種における霜害対策と色沢向上技術の確立	平成26～28年

新たな霜害対策の可能性を探索する試験	令和3年～
FS 茶の高温障害の実態解明	令和6年
FF 気象経過に対応し、収量確保するための、茶園管理方法の解明・提案	令和7年
FF 近年の気象条件における夏季被覆効果の把握	令和7年
病害虫に関する試験	
病害虫防除薬剤と製茶品質試験	昭和2、9年
霜害後における防虫薬剤使用施用の製茶品質に及ぼす影響	昭和2年
テッポウムシの経過に対する調査	昭和2、4年
チャノホソガの誘殺、防除試験	昭和3～5、11～12、31、47年
チャノホソガ、シャクトリムシの誘蛾に関する試験	昭和4年
白紋羽病予防試験	昭和4～7、26、35～37年
茶樹病害虫予防用薬剤と製茶の品質特に香氣との関係	昭和5～6年
砒酸鉛に対する茶樹葉害試験	昭和5年
クワシロカイガラムシ防除試験	昭和5、11～12、26、30～31、33、35、40、44年
誘蛾灯による茶害虫発生調査	昭和5～8、14～17、26年
チャノホソガの嗜食植物調査	昭和5年
テッポウ虫駆除試験	昭和6年
霜害後のカンザワハダニ駆除試験	昭和6年
カンザワハダニ防除試験	昭和6～48年
膏葉病防除試験、餌食誘殺法のチャノホソガに対する効果	昭和7年
シャクトリムシ採卵、駆除試験	昭和8～9年
チャノホソガ産卵、天敵調査	昭和10～11年
ルビーロムシ駆除試験	昭和16年
病害虫発生予察に関する試験	昭和26～40年
白紋羽病の防除試験	昭和26、35～39年
京都府下における茶樹病害虫の発生状況調査	昭和28～38年
赤焼病に対する防除試験	昭和30年
炭そ病に対する防除試験	昭和31～33、39年
茶のそうか病に関する試験	昭和32年
網餅病防除試験	昭和32～33、35年
テンゲイラガの防除試験	昭和32～33年
チャノナガダニの防除試験、コカクモンハマキ防除試験	昭和32～33、47～48年
黒色芽枯病防除試験	昭和33、36年
メタシストックス乳剤によるカンザワハダニ防除試験	昭和33～34年
除草剤試験	昭和33年～
農薬連絡試験	昭和34年～
農薬の散布と製茶品質との関係試験	昭和34～35年
各種薬剤によるカンザワハダニ防除試験	昭和35年
果樹等病害虫発生予察実験事業（茶樹）	昭和35～38、45年
黒色芽枯病、胴枯性病害	昭和36～41年
空中散布による害虫防除試験	昭和38年
茶園土壤線虫に関する試験（覆下園）	昭和38～40年
茶園土壤線虫検診方法および防除時期に関する調査	昭和38～39年
チャネグサレセンチュウ、ビンセンチュウ防除に関する調査	昭和38～39年
農薬散布と製茶品質に関する調査	昭和39年
農薬効力比較試験	昭和39年
殺虫効力試験に関する参考資料	昭和39年
茶樹寄生性土壤線虫の分布及び被害状況調査	昭和39年
カンザワハダニ生息密度に関する試験	昭和39～40年
チャノホソガに関する研究	昭和39、42、44年
苗根腐病に関する試験	昭和39～40、42～44年
赤葉枯病に関する試験	昭和40、42～50年
カンザワハダニの薬剤抵抗性に関する研究	昭和42～45年
ハンノキキクイムシに関する研究	昭和42～43年
白紋葉病、根腐線虫防除試験	昭和43～44年
病害虫発生予察事業	昭和46年～
スプリンクラーの多目的利用試験	昭和46～48年
省力防除に関する試験	昭和46～49、51～52年

シャクトリムシ、チャノミドリヒメヨコバイ防除試験	昭和47年
BT剤、土壤施薬、白星病	昭和48年
チャノホソガの発育ステージと防除効果	昭和48年
薬剤防除効果に関する試験	昭和48～49年
スプリンクラー（回転噴口）利用による防除	昭和48～49年
農薬の飛散防止に関する試験	昭和51～56年
道路周辺の大気汚染物質が茶樹に及ぼす影響の調査研究	昭和52年
コカクモンハマキに対する防除効果	昭和56年
耕種的防除技術に関する試験	昭和56～57、59年
チャノキイロアザミウマに対する防除効果	昭和56年
カンザワハダニの薬剤感受性に関する試験	昭和57年
ブリクトランに対するカンザワハダニの抵抗性	昭和57～60年
害虫の習性利用による防除	昭和57年
夏季の浅整枝と害虫との発生	昭和57～58、60年
抵抗性ダニに対する有効薬剤の探索	昭和61～62年
施肥量と病害虫	昭和61～63年
京都府におけるチャ輪斑病菌による病害発生の調査研究	昭和63～平成2年
合成ビレスロイド系農薬によるカンザワハダニのリサージェンスに関する試験	平成2～5年
チャ灰色カビ病防除法の確立	平成6～8年
化学繊維網の被覆による防除技術の開発	平成6～8年
チャ褐色円星病の発生実態の把握と防除法の確立	平成9～12年
摘芯処理によるチャ灰色かび病の防除法	平成9年
クワシロカイガラムシの冬期防除の検討	平成9年
化学繊維網の被覆による防除技術の改良	平成9～11年
粘着トラップによるクワシロカイガラムシの発生消長の把握	平成8～9年
吸引粘着トラップによるチャノキイロアザミウマの発生消長の把握と既存登録薬剤の防除効果の確認	平成8～9年
クワシロカイガラムシの簡易モニタリング手法の開発	平成10～15年
京都府におけるチャ害虫の天敵調査	平成9～10年
農薬の効果確認試験	昭和43年～
クワシロカイガラムシ防除試験（噴口の比較）	平成10年～
灰色かび病の防除法の確立	平成6～14年
黒色芽枯れ症の原因究明	平成9～15年
自然仕立て園における灰色かび病防除法の確立	平成6～平成13年
炭疽病の薬剤防除時期の検討	平成11年～
銅水和剤の残臭試験	平成11年～
天敵放飼によるコミカンアブラムシの覆下園での防除効果	平成11年～
防虫ネットによる防除効果	平成11年～
天敵利用による減農薬茶栽培法の確立	平成12～16年
電解水による炭疽病、輪斑病に対する防除効果	平成12年～
ウスコカクモンハマキの発生消長（フェロモントラップ）	平成12～15年
非摘採芽におけるチャ害虫の被害許容水準の設定	平成12～14年
カンザワハダニ薬剤抵抗性検定	平成12年～
人為接種による炭疽病抵抗性の検定	平成13～14年
フェロモントラップによるチャノホソガ発生消長の地域間差	平成13年
チャノホソガに対する電撃型自動計数フェロモントラップ実証実験	平成14～15年
クワシロカイガラムシの簡易モニタリング手法の開発	平成13年
茶害虫クワシロカイガラムシの環境保全型防除技術の実用化	平成14～15年
京都府におけるナガチャコガネの発生状況調査	平成14～16年
チャノホソガの防除要否の判定技術の確立	平成16～18年
黄色高圧ナトリウムランプによる鱗翅目害虫の防除	平成16年
チャにおけるミカントグコナジラミの発生調査	平成17年
チャにおける新害虫ミカントグコナジラミの生態把握と防除方法の確立	平成18～20年
チャノホソガの黄色LEDによる省エネルギー防除技術の確立	平成18～20年
農薬分析サンプルの簡易調整法の確立	平成21～23年
実用化 チャの新害虫ミカントグコナジラミの発生密度に対応した戦略的防除技術の確立	平成21～23年
消費安全対策 茶の防除経費削減のための効果的病害虫防除技術の確立	平成24～26年
プロ 宇治茶の国内外の需要拡大に向けた新商品開発と生産技術の確立 「EUの農薬残留基準値をクリアする茶病害虫防除技術の確立」	平成26～28年
地域戦略プロ 一番茶の海外輸出を可能とする病害虫防除体系の構築と実証	平成28～30年

プロ 宇治茶の機能性の解明と伝統技術に基づく新技術の開発による宇治茶ブランドの継承発展 宇治茶の優れた伝統技術を活かす省力的新技術の開発 「手摘み園(自然仕立て園)における省力的防除技術の開発」	平成30～令和2年
FS 茶葉の農薬除去の基礎研究	平成30年
特別栽培農産物（茶）に関する試験	令和2～

■製造関係の試験研究

試験名	時期
生葉保管に関する研究	
原葉貯蔵試験	昭和5年
生葉冷蔵貯蔵試験	昭和12～13年
露芽処理試験	昭和13～14、29～34年
生葉及び半製品の貯蔵試験	昭和37～38年
生葉保管中の堆積層と品質	昭和52～53年
摘採袋の改良と品質	平成3～6年
空気循環式生葉管理装置の開発	平成7～8年
覆い下生葉に対応した鮮度保持装置の開発	平成25～26年
燃料及び火炉に関する研究	
各種燃料に関する調査	大正14～昭和14年
電熱蒸発機調査	昭和2年
無煙炭火炉及び燃焼試験	昭和3～4、33～34年
中心火炉設計試作と調査	昭和6～9年
液体燃料試験	昭和28～31年
コークス火炉試験	昭和29年
京茶研型直火火炉てん茶応用試験	昭和23～24年
液化石油ガス使用法試験	昭和32～34年
ガンタイプバーナー試験	昭和56年
蒸熟に関する研究	
機械蒸しと手蒸しの比較調査	大正14～15年
蒸し用汽缶の設計・試作	昭和3年
熱風手蒸し試験及び釜蒸し試験	昭和12～13年
蒸熟操作方法に関する試験	昭和30～33、41～51年
蒸度判定法の検索	昭和52～55年
原料の計量供給方法・蒸機の改良	昭和52～55年
蒸気噴出方法の違いと品質	昭和56～57年
蒸葉の判定法と蒸機の操作	昭和56～61年
生葉の係数的数値と蒸熟条件設定	昭和58～平成元、5～7年
原料に応じた蒸熟条件の設定	平成2～5年
近赤外分光法を利用した生葉測定値による蒸熟条件設定に関する試験	平成5～10年
粗織維含量等を利用した煎茶の蒸熟工程管理システムの確立	平成18～20年
戦略的 茶葉のかさ密度等を指標とした宇治煎茶の特色を活かす蒸熟条件の設定	平成22～24年
粗揉に関する研究	
大型製茶機の上級茶製造に関する試験（背面吹込）	昭和42年
粗揉に関する研究（回転・温度・風量・投入量）	昭和43～46年
粗揉機構の改善に関する試験（分割粗揉）	昭和47～55年
粗揉機もみ手への形態改良と使用法に関する試験	昭和61～平成5年
粗揉工程における主軸操作制御技術の開発	平成13～15年
揉捻に関する研究	
連続揉捻に関する試験	昭和38～41年
取出し時判定法	昭和48～51年
操作条件と製茶品質との関係解明	平成5～7年
中揉に関する研究	
自動制御機構に関する試験	昭和41～43年
水分による取出し時期判定法	昭和55～62年
中揉機もみ手への本数と揉念に関する試験	昭和63～平成2年

精揉に関する研究	
電熱応用試験	大正14～15年
燃料消費調査	昭和2年
取出し時期の計測に関する試験	昭和39～41年
精揉機の自動化に関する試験	昭和41～53年
揉み室条件とより込みと品質試験	昭和53～58年
揉み茶精揉工程の工程管理	平成11～12年
乾燥に関する研究	
電熱乾燥試験及び改良	大正14～昭和2年
乾燥機の試作	昭和15～16年
高周波乾燥及び赤外線乾燥応用試験と乾燥機の試作	昭和23～27年
熱風方式の違いと品質	昭和58年
覆い下茶の乾燥特性に適応した機械制御	平成9～11年
荒茶の貯蔵・容器等に関する研究	
荒茶貯蔵中における変質防止に関する試験	大正15～昭和4年
製茶水分量と温度別貯蔵試験	昭和10～13年
冷蔵庫における茶の温度調査	昭和10年
茶箱内張り代用試験	昭和13～16年
減圧缶詰貯蔵試験	昭和27年
低温貯蔵試験	昭和28年
茶の窒素ガス貯蔵に関する試験	昭和38～46年
緑茶の貯蔵に関する試験	昭和49～51年
JST 覆い下茶の熟成に関係する荒茶製造条件の解明による品質向上技術の開発	平成21～23年
覆い下茶の品質関連成分を指標とした品質管理技術の確立	平成24～26年
withコロナ宇治茶プロ 開封後も1ヶ月程度はおいしく飲める簡易な常温保存技術の開発	令和3～5年
再製加工に関する研究	
再製加工時の温度条件と硫化メチルとの関係	昭和61～63年
品質及び審査に関する研究	
製茶標準水色液調整の研究とその応用	大正15年
緑茶の香気（着香、着味）に関する研究	昭和7～14年
茶の変質防止について	昭和37～42年
ブローケン玉露における添加剤の影響	昭和38～39年
茶の物理的性質と簡易評価法に関する試験	昭和50～58年
品質評価に関する試験	昭和57年
茶審査摘要の原因分析	平成6～10年
品質成分の簡易測定法	平成11年
製造全般やその他に関する試験	
簡易製茶製造試験	昭和19～25年
玉露・煎茶の製造法の改良に関する試験	昭和30～38年
大型製茶機の製造基準設定に関する試験	昭和42～44年
原料素質と機械操作条件に関する試験	昭和52～54年
茶葉の凍結貯蔵に関する試験	平成5年～
緑茶の新規需要形態に対応した高付加価値技術	平成8～9年
香り豊かな茶の生産並びに利用技術の開発	平成14～17年
府内育成品種の香味を活かす宇治煎茶製造技術の開発	平成21～23年
てん茶の給葉・蒸熟・散茶に関する研究	
てん茶用機械と蒸機との直結試験	昭和5～11年
てん茶用蒸機の考案試作	昭和17～24年
蒸熟操作に関する試験	昭和34～38、43～51年
蒸胴容積が品質に及ぼす試験（蒸気・噴出口・圧力）	昭和53～59年
折れ葉の原因解明に関する試験	昭和60～63年

てん茶機に関する研究	
京茶研てん茶1号・2号型乾燥機考案	大正14～15年
京茶研てん茶2号型の試作	昭和2年
乾燥機の考案及び試作	昭和3年
温度測定調査	昭和4～9、15年
てん茶機械簡易化試験	昭和7～10年
てん茶機における通風と排熱	昭和10～18、55～57年
てん茶の乾燥方法	昭和13～14、25～40年、昭和44～平成元年
機械茶運り機試験	昭和15～17年
赤外線及び透気式乾燥試験	昭和38～41年
補助煙道の開閉と機内雰囲気及び品質	昭和53年
乾燥機の放熱防止	昭和58～平成元年
既存てん茶機による限界処理量試験	平成元～3年
(てん茶) 近赤外分光法を利用した製茶工程管理技術の開発	平成5～10年
てん茶乾燥工程の自動制御	平成11～14年
てん茶における色情報解析システムの開発	昭和15～17年
新熱源を用いた高能率てん茶機の開発	平成15～18年
新熱源を用いた高能率てん茶機(後半期工程)の開発	平成19～23年
てん茶製造工程における衛生管理マニュアルの策定	平成18～20年
FS てん茶機操作の自動化に向けた機内放射の測定技術	平成24年
てん茶機内の加熱適正化による品質向上技術の開発	平成25～27年
てん茶の仕上げ乾燥における製茶品質の改善	平成27～29年
先導プロ 海外市場の飛躍的拡大を目指す高品質抹茶の低コスト製造技術及びカフェインレスまつ茶系統の開発「新熱源てん茶機の性能向上と生産機による効率性の実証」	平成28～令和2年
プロ 機械摘みてん茶における生葉データを活用した製茶工程の省力管理システムの開発	平成31～令和5年
輸出向けてん茶の製造におけるコンタミネーションリスクを軽減する設備の開発及び手法の確立	令和3～5年
茶挽臼に関する研究	
茶挽臼の改良	大正15～昭和3年
てん茶の粉碎に関する研究	昭和5～7、26～59年、平成元～3年
挽臼以外の粉碎法試験	昭和51～52年
まつ茶臼の温度と香氣との関係解明	平成7～9年
まつ茶臼の温度による制御技術の開発	平成10～12年
近赤外分析計による抹茶の粒度測定	平成15年
抹茶の貯蔵・容器に関する研究	
貯蔵方法に関する試験	昭和3、6、13、25～26、36、39～40年
抹茶の乾燥に関する試験	昭和24～25、39～58年
製品の取扱い試験	昭和3～7年
抹茶の加工と新利用	昭和35～42年
FS 茶壺に凝らされた工夫を現代に生かす抹茶品質保持技術の開発	平成29年
抹茶の品質に関する研究	
製茶品質保有に関する研究	大正14～15、昭和6～10年
挽茶水分量と貯蔵期間との変質試験	昭和6年
抹茶色彩標準調整に関する研究	昭和6、36年
糖衣抹茶の試験	昭和18年
抹茶の見かけの比容積	昭和39年
抹茶の粒度と気泡と物性に関する試験	昭和44年
抹茶の品質に関する研究	昭和36～44、46～52年

■化学関係の試験研究

試験名	時期
成分に関する試験	
蒸熟による茶葉成分の変化に関する研究	大正14～15年
市販抹茶に関する調査	昭和2～4年
覆下による茶葉成分の変化	昭和3年

緑茶の香気に関する研究	昭和7~12年
製茶中のビタミンCの含量	昭和10~11年
茶葉中の総ビタミンC	昭和13、20年
茶葉の葉緑素並びにカロチノイドの含量	昭和12~13年
不斎化物に関する研究	昭和15年
アスパラギンの分離	昭和26年
茶葉のアミノ酸の濾紙クロマトグラム	昭和26年
酸性含窒物の研究	昭和26年
ロイシンの分離	昭和27年
イオン交換樹脂を用いる窒素化合物の研究	昭和27年
水溶性有機酸に関する研究	昭和27~29年
モノアミノモノカルボン酸分離	昭和28年
茶葉水溶性窒素の収支に関する研究	昭和28~29年
茶葉タンニンに関する研究	昭和28年
鉛糖で沈殿する窒素化合物に関する研究	昭和29年
酸性アミノ酸に関する研究	昭和29~30年
茶葉緑色色素に関する研究	昭和29~30年
高級脂肪酸に関する研究	昭和30年
茶葉中イノシットに関する研究	昭和30年
テアニンの合成に関する研究	昭和31~33年
糖類に関する研究	昭和31~32年
塩基性窒素化合物に関する研究	昭和32年
茶葉中のろう成分に関する研究	昭和33年
根における窒素成分について	昭和34年
種子中の窒素成分について	昭和35年
テアニンの簡易定量法について	昭和37~43年
茶樹部位別窒素成分の分布とその変移について	昭和37年
被覆茶樹の生理生態に関する研究	昭和38~42年
市販玉露、抹茶の成分調査	昭和52~55年
肥料による新芽中のMMSとアミノ酸含量への影響	昭和55~60年
硫化メチル発生要因の検索	昭和55~60年
市販被覆茶の硫化メチル含量調査	昭和56~63年
両丹玉露の成分調査	昭和58~59年
貯蔵中のシリカゲル乾燥剤による香気成分への影響	昭和60年
未利用茶葉中のビタミンE含有量調査	昭和61~62年
再製加工時の温度条件と硫化メチルとの関係	昭和61~63年
省肥料による香味発揚に関する試験	昭和61~平成2年
肥料の種類、施肥量と新芽中のMMSとの関係	昭和61~平成2年
茶葉中のビタミンEの利用技術の開発	昭和63~平成4年
てん茶の色沢に影響する色素の検索	平成元~3年
玉露、抹茶の香気改善のための成分調査	平成元~4年
施肥量で影響する香気成分の検索	平成4~7年
機械摘採てん茶における品質（色沢）と色素の関係	平成4~6年
市販煎茶成分調査	平成5~8年
野菜・茶およびウメの原産地表示判別技術の開発	平成14~16年
プロ 宇治茶の機能性の解明と伝統技術に基づく新技術の開発による宇治茶ブランドの継承発展 消費拡大に向けた特徴ある宇治茶の品質特性の解明 「統計的解析手法による宇治茶の含有成分の特徴明確化」	平成30~令和元年
FS研究 秋芽の被覆が秋てん茶の品質関連成分及び被覆後の生育に及ぼす影響調査	令和2年
蛍光反応による茶抽出物等の成分測定技術の開発	令和3~4年
品質に関する試験	
製茶品質保有に関する研究	大正14~15年
色料に依る製茶標準水色作成の研究	大正14年
製茶標準水色液調製の研究と其の応用	大正15~昭和3年
緑茶貯蔵中に於ける変質防止に関する研究	大正15~昭和2、4年
蒸熟と製茶品質に関する研究	昭和2年
挽茶の吸湿による品質変化に関する研究	昭和2年
挽茶貯蔵中に於ける変質防止に関する研究	昭和3~4年
挽茶品質の良否と科学的成分に関する研究	昭和3~5年

てん茶貯蔵に関する試験	昭和5年
茶貯蔵中における還元型ビタミンC	昭和13年
玉露水浸液の研究	昭和14年
府下産茶の窒素含有量に関する研究	昭和16年
玉露のうま味に関する研究	昭和16～17年
茶の品質保全に関する試験	昭和34年
まつ茶の褪色防止について	昭和34年
省力化に伴う高級茶の品質低下防止に関する試験	昭和43～47年
茶樹の光線利用技術に関する試験	昭和45～46年
施設農業における光線利用の技術化に関する総合研究	昭和47～49年
被覆の簡易化に伴う高級茶品質低下防止に関する試験	昭和50～54年
煎茶の品質向上対策調査及び試験	平成3～5年
被覆茶の製茶工程に伴う香味成分の変化	平成7～10年
被覆資材の違いによる新芽の化学成分の消長調査	平成9～11年
品質成分の簡易測定法	平成11年
荒茶の遊離アミノ酸含有率が製茶品質に及ぼす影響	平成15～17年
宇治茶(煎茶)の香気の発揚を促す適正施肥量の解明	平成17～19年
抹茶の香りの機能性解明試験	平成24～26年
プロ 宇治茶の機能性の解明と伝統技術に基づく新技術の開発による宇治茶ブランドの継承発展 消費拡大に向けた特徴ある宇治茶の品質特性の解明 「宇治抹茶摂取による機能性評価」	平成30～令和3年
プロ 宇治茶の機能性の解明と伝統技術に基づく新技術の開発による宇治茶ブランドの継承発展 消費拡大に向けた特徴ある宇治茶の品質特性の解明 「宇治茶の機能性を発現する茶生産技術の確立」	令和元～4年
宇治茶の機能性など付加価値向上のためのデータ収集・分析	令和2年
withコロナ宇治茶プロ 子供でも飲みやすい苦みを感じにくい抹茶(てん茶)栽培法の開発	令和3～5年
高品質抹茶の機能性表示食品に向けたエビデンスの構築	令和4～6年
茶の新利用加工に関する試験	
満蒙向着香茶試験	昭和12年
インスタントティーに関する研究	昭和35年
抹茶の新利用加工に関する研究	昭和35年
水色の変化防止に関する研究	昭和36～37年
退色防止に関する研究	昭和36～37年
酵素の製茶利用に関する研究	昭和38年
緑茶製造における酵素剤の添加試験	昭和38～39年
発泡性加糖抹茶に関する試験	昭和39年
緑茶スナック試作	昭和62年
茶の葉ジャム試作	平成4年
夏秋茶葉を用いた茶の多用途利用技術の開発	平成10～13年
搾汁液粉末の機能性評価	平成12～14年
茶葉タンパク質の利用法の開発	平成13～15年
てん茶の茎の高度利用食品の開発と機能性評価	平成15～18年
JST 高濃度にテアニンを蓄積するてん茶の茎部の優位性実証試験	平成19年
プロ 宇治茶の国内外の需要拡大に向けた新商品開発と生産技術の確立 「てん茶の風味・機能性を活かした新商品開発」	平成26～28年
プロ 京都ブランドの強化につながる「京食材」の魅力向上技術の確立 「覆い下茶の熟成を生かしたヴィンテージ茶の開発」	平成28～30年
withコロナ宇治茶プロ 新商品の評価	令和3～
高品質てん茶の茎と乳酸菌を用いたポリアミンを多く含む新商品の開発	令和4～6年
輸出可能でテアニン豊富な高品質玉露の濃縮冷凍キューブの開発	令和4～6年
変色しにくいてん茶の茎ペーストの開発及び茎ペースト入り商品の開発	令和7～8年

■経営について

試験名	時期
京都府の煎茶地帯における共同製茶工場の運営実態と効率的運営の検討	平成11～13年